

岡山県産材の利用

全国一位のヒノキ生産量

岡山県のヒノキの素材生産量は、全国一位を誇っています。その用途は、住宅の建材として利用される場合は、耐久性、香り、美しい木目などの点から優良材として重宝され、柱や土台等の構造材や床材、壁材等の内装材に多く使われます。

全国的には、スギがヒノキに比べて約5倍の生産量がありますが、岡山県では、ヒノキの生産量がスギに比べて1.6倍多く、住宅の資材として優良な木材を手に入れやすい環境となっています。

また、県内の人工林のスギやヒノキは毎年約70万㎡を超える量で成長しています。しかし、平成25年の県内の木材の伐採量はその約半分しかなく、資源は増加し続けています。この生長量は、県内で毎年新しく建てられる一戸建住宅を全て県内産の木材を使っても使い切れない量といえます。

全国でトップクラスの品質

岡山県の製材業者は、全国に先駆けて国産材の製材技術や乾燥技術を築き上げ、長年培った技術は現在も引き継がれています。この技術により製造された住宅の構造材は住宅の品質についても、住まれる方にも安心感を与えてくれます。

県内の林業・木材産業の活性化に貢献

県産材を使うことは、その生産・加工の工程を県内で行うことになり、地域経済を潤すこととなります。外材を使った場合、恩恵を受けるのは外国の生産地と商社などの輸入業者になり、地元にはお金は戻ってきません。

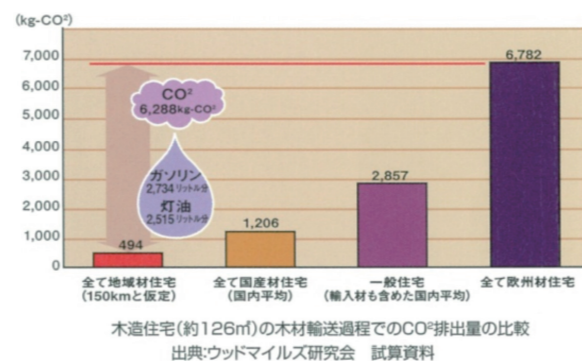
住宅や家具などに積極的に国産材特に県産のスギやヒノキを伐採して使うことが県内の森林の健全なサイクルを活性化させ、県内の農山村地域、林業・木材産業さらには、関連産業も元気にさせ、地球温暖化防止や循環型社会の形成に繋がります。

環境への負荷が少ない

日本の木材の自給率は約3割と低く、その殆どを外国産に頼っていますが、カナダやアメリカ、ヨーロッパ、東南アジア等外国産の木材を日本に輸入するためには、長い距離を船で運ばなければなりません。その輸送のためには、多くの化石燃料を消費することとなり、温室効果ガス(CO₂)の排出等環境に大きな負荷が掛かります。一方、国産材特に県産材を利用する場合は、輸送距離は圧倒的に短く、輸送に伴う消費エネルギーを大幅に減らすことができます。

木材をふんだんに使う住宅は、温室効果ガスを固定できますが、外国の木材を使うことは、かえって二酸化炭素を排出しているということになるかもしれません。

ウッドマイルズ研究会が試算した木造住宅1棟あたり(126㎡)の木材輸送過程におけるCO₂排出量の比較を図に示します。



生産者が分かり安心できる品質

木材は鉄やプラスチック類が一つの工場生産・加工が可能な材料とは異なり、多くの人の手によって生産・加工・流通する材料です。しかし、県産材であれば、その生産者、加工者が分かり、生産現場や製材工場の見学もでき、原材料を身近に感じることができます。

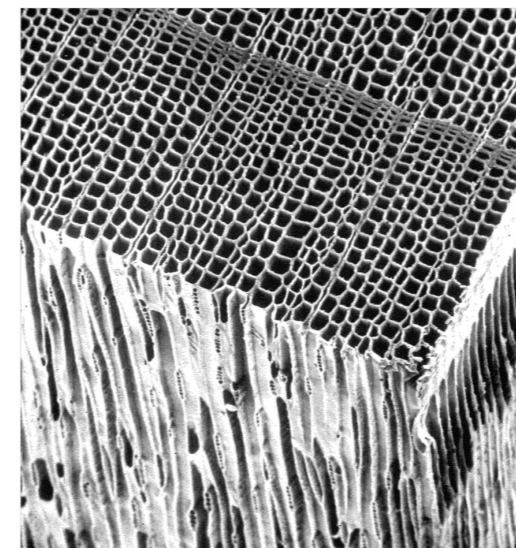
木の家・木の空間

住む人の健康を支える木の空間

木材はコンクリート等に比べ**断熱性が高く**、冬は木質化した室内が暖かく感じられ、湿度が高いときは水分を吸収し、湿度が低いときは水分を放出するという**調湿作用**があります。また、**結露やカビやウイルスの繁殖を抑制**するとともに、木の抗菌作用で**ダニの繁殖も抑える**ことができます。さらに**音を適度に吸収**するなど、人に心地よい感覚を与える素材です。この他にも木の香りの主なフィトンチットには**リフレッシュ効果や鎮静効果等**があり、木造の室内が鉄筋コンクリート造りの室内と比べて**気力の減退が少ない**など、健康や精神面に良いという報告もあります。

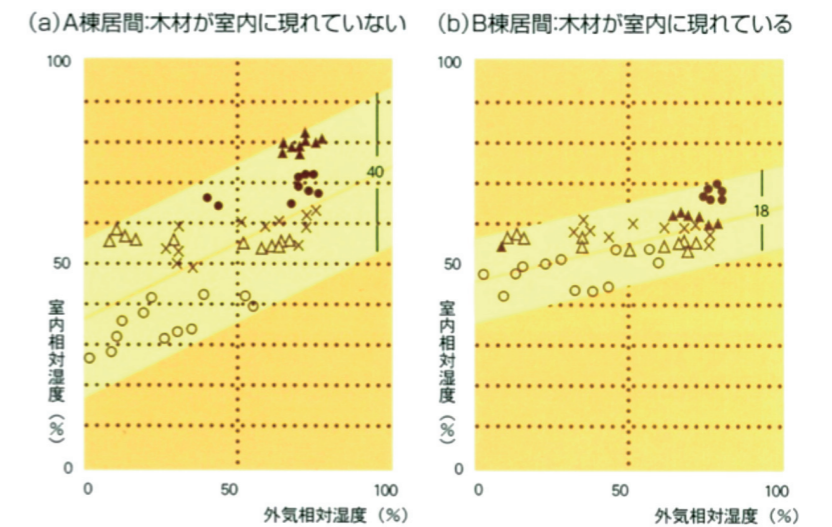
住宅を建てるのが目的ではなく、住宅を建ててから住み続けることを考えると、健康で快適な生活環境にこだわった県産材の木造・木質の住宅を考えてはいかがでしょうか。

ヒノキの電子顕微鏡写真



資料:木材の構造(林業技術協会)

試験住宅の居間の相対湿度



出典:岡野健「木材工業」VOL.33No.10をもとに作図